

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会 第4回

日時：平成28年9月24日（土）午後2時10分から5時30分まで

場所：多摩市役所 301・302会議室

出席者：（基本構想策定委員）柳田委員長、松本副委員長、常世田委員  
鈴木委員、寺沢委員、尾中委員、千葉委員、  
青木委員、辻山委員、大澤委員

（事務局）清水教育長、福田教育部長、中島図書館長、笹原主査、  
原田総務係長、阿部企画運営係長、藤田地域資料係長、栗崎サー  
ビス係長、村野子ども読書支援係長、阿部関戸・東寺方図書館  
長、福島主事  
コンサルタント2名

---

○ 開会

副委員長：委員の出席数が定数に達しているため、第4回多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会を開催する。

【配布資料確認】

会議次第に記載の資料の他、委員からの提供資料があった。

「公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案に対する私たちの意見（存続を考える四会と多摩市の社会教育を考える会 発行）」

「第1回 図書館学習会の記録 市民のための図書館をつくろう（多摩市に中央図書館をつくる会 発行）」

○ 報告

1. 策定委員会の構成と進め方について

副委員長：事務局から説明をお願いします。

事務局：資料1をご覧ください。前回までは図書館の現状と課題ということで、全体のネットワークと分館について考えていただいた。それを踏まえて、今回からは本館についてご検討いただきたい。今回の議題は「街とつながる新しい本館の活動と環境のかたち」と「多摩市の新しい本館の役割」で、議題にそった情報提供を行うので、ご議論いただきたい。

副委員長：これまで3回にわたり多摩市の図書館の現状と課題ということで、地域館・拠点館を含めて多摩市の図書館ネットワークについて検討してきた。本日は第4回目ちょうど折り返し地点にあたる。今回から本館について、具体的な議論をしていくことになる。

2. ヒアリング結果の報告

副委員長：事務局から説明をお願いします。

事務局：資料2をご覧ください。前回まで、複数の団体のヒアリングについて報告してきたが、追加の報告をさせていただく。

【おはなしシュッポッポ】

ヒアリングの募集をして応募があった団体だったが、日程が合わなかったの  
で、意見をまとめたものをいただいた。

- 会の活動について
  - ・図書館主催の絵本よみきかせ講座の受講生有志が集まり、2010年に発足。
  - ・現在、メンバー9名
- 会の活動と図書館とのかかわりについて
  - ・図書館を通して発足した団体なので、図書館とのかかわりなしには考えられない。
- 基本構想策定委員会に伝えたい「図書館とともにこれまで培ってきたこと」
  - ・読書の楽しさを感じ豊かな想像力を持ち自分で考えることのできる心豊かな人間に育ってほしいという思いを共有し、図書館に協力してきたし、これからもしていきたい。
- 会の成長や展開について
  - ・図書館からのアドバイスや情報、講習会開催を希望する。
  - ・団体相互の情報交換、交流なども大事だと思う。
- 基本構想策定委員会に伝えたい「活動の場としての図書館」について「新中央館に望むこと／地域館にのぞむこと」
  - ・市民が気軽に利用できる図書館であってほしい。
  - ・新中央館のアクセスも考慮してほしい。駐車場に配慮を。
  - ・市内図書館どこで借りてもどこでも返却できる今のシステムはとても便利。
- その他
  - ・幅広い世代が利用しやすい図書館を希望する。
  - ・中学校の図書室を利用できるようにすることはできないか、という意見も。
  - ・地域図書館は絶対に必要
  - ・中央館は、アクセス方法が便利であることは重要
  - ・心休まる、寛げる図書館（地域図書館を含む）は市民にとって大事。

#### 【多摩市立図書館の障がい者サービス】

図書館の障がい者サービスの担当がまとめた資料を編集したもの。  
 障害者サービスというものは特別なものではなく、全ての方が図書館を利用できるように、資料から情報を得られるように環境整備や配慮をするという考え方。

##### サービスの内容

- 音訳：活字資料を音訳し、録音図書(DAISYなど)にする。
- 対面朗読：利用者に資料を音読する。
- 点訳：点字資料を作成する。3つのグループに支えられながらサービスを提供。
- 宅配サービス：5名のボランティアに支えられている。施設等に入所して、図書館に来館できない方などから利用の要望が増えている。
- 発達障害の方に向けたサービス：マルチメディアダイジェスト（音声や画像が複合した資料）などがあるが、利用に結びついていない。

#### 【図書館協議会委員からの意見】

各委員からご意見をまとめたものをいただいた。主な意見を紹介する。

##### ○委員

- ・地域館は、必要不可欠である。施設の老築化を迎えた後にも、サービスを持続できる何らかの対策を立てるべきである。
- ・職員の資質、能力の向上が必要。
- ・本館を中心として、地域館の充実。
- ・学校図書館への支援強化

- ・図書館活動（おはなし会の企画・立案・準備等）に使える部屋が欲しい。
- ・乳幼児向けのおはなし会ができるスペースが欲しい。
- ・0才～2才の乳幼児をつれた母親が多いので、乳幼児向けの本の書架の近くに、母親向けの本（育児・病気・趣味等）の書架があると便利。

○委員

- ・鈴木委員の意見に同意する点が多い。
- ・子育て中の方が図書館を利用することは中々時間的に難しい方も多し。（子どもの送り迎えで手一杯）身近に気軽に、あまり気遣いなく利用できる環境があることが理想ではないか。
- ・一般の方の利用スペースと分離した現在の本館スタイルは良い。

○委員

- ・子どもたちは、学校図書館での体験を通して公共図書館の使い方やマナー等の基礎を学ぶ。
- ・学校図書館司書の配置は教育活動にとって大変有効、今後も配置をお願いする。教育部が主催する研修をさらに充実させていただきたい。

○委員

- ・図書館司書の活用をどこまで要求していいのか不明瞭なため活用しにくい。
- ・修学旅行等の調べ学習で図書室の資料がない。市で一括購入をして各学校への貸し出し等をするとういのでは。

○委員

- ・現図書館費中の職員経費の比率 74%の大きさは問題であろう。人件費の構造改革を進めるべきだろう。
- ・自動貸出機、自動返却機など「ICタグ」の導入は早期に行うべきである。
- ・本館と地域館との役割分担を明確に示してください。
- ・休憩室、談話室、喫茶室（外部業者に委託）など。ゆとりある空間を十分考慮する。
- ・図書館PRをより強化する。
- ・中央図書館へのアクセスにも考慮する。
- ・アンケート調査など、調査には、まず何のためにするのか（目的）とその結果をどう使うのかを（分析・解析）を決めてから企画する。

○会長

- ・図書館を「本を貸すところ」と狭く定義するのではなく、「知識・情報の広場」に。
- ・コミュニティの過去、現在、未来をつなぐ機能を持つ場所に。
- ・市民の知的創造を触発し支援する場所に。
- ・充実したコレクション（幅と深さ）。ブラウジングで情報遭遇がもたらされる場。
- ・地域情報、行政情報に関わるアーカイブ機能
- ・電子的機能の活用・充実（各種データベース、電子書籍、WiFiの提供、持ち込みパソコンの利用、ICタグ等）
- ・司書職制度の採用
- ・拠点館が持つ広域的サービスに関わる機能、全館に関わる企画・調整・連携等の機能は基本的に中央図書館に集中。

副委員長：  
委員：

ヒアリングの報告を事務局からしていただいた。ご意見はあるか。  
障がい者サービスの現状についての報告があったが、サービスの受け手となる利用者やボランティアをしている方のヒアリングは、今後予定があるのか。  
この会ではないが、音訳・点訳を行っているボランティア団体にヒアリングを行ってはどうか、と意見を述べたことがある。

- 副委員長： ボランティアとして関わっている団体やサービスを受ける利用者に意見を伺って、今後の活動の発展につなげてはどうかという意見だと思うが、事務局で考えがあるか。
- 事務局： ボランティア団体の集まりがあったのでヒアリングについて伺ったが、日程が合わず、実現していない。今後機会があれば、ご意見をいただくことはできると考える。資料2の2ページ目、中段にサービス利用者の満足度について、担当から報告がある。電話などの様子から満足されているようだと感じるということだが、この場での報告とさせていただきたい。
- 委員： 利用者については、複数の方に集まっていただくのが難しいと思うので、どういった形で意見をいただくか、検討させていただきたい。
- 委員： ボランティアの方々も市民で、障がいを持った方の利用に応えようと集まっている。障がいを持った方も、困難な状況でも資料にあたりたいというのは、一般の市民と同じだと思う。身近にいるボランティアの方からも、サービス利用者はナイーブな方が多くて意見があっても発言する機会がない、といった様子が聞かれる。ヒアリングをするのが難しいというのは理解できるが、働きかけをすることはできないか。
- 副委員長： 今後建物をつくる基本計画の段階でそういった団体をとりこんで意見を聞いて行ってはどうかと思う。
- 委員： 今後、ボランティアや利用者の方々に意見をいただくことを考えていただきたい。
- 委員： 一例だが、日野市立図書館では視覚障がいを持った方が図書館員として働いている。障がいを持った方だからこそ、利用者の心情に沿うことができるように思う。多摩市立図書館もそのような検討ができれば、と提案としたい。
- 副委員長： 私も図書館で働いていた経験があるが、障がい者サービスの中心にいたのはやはり障がいをもった方だった。また、日本の障がい者サービスで今、中心的に活躍しているのは埼玉県立図書館の視覚障がいをもった職員。障がいを持った方の気持ちがよくわかるということでは、働いていただくのは良いことではないかと思う。
- 事務局： これまでもヒアリングの報告はしていただいているが、今後の予定はあるか。
- 事務局： 昨日、学校図書館司書の集まりで研修を兼ねて意見を聞く機会があった。時間の関係で発言ではなく、意見のある方にシートで提出していただくようお願いしている。また、創業支援施設の担当にヒアリングを打診している。

### 3. 「多摩市立図書館 現状と課題チャート」について

- 副委員長： 事務局から説明をお願いします。
- 事務局： 資料3をご覧ください。前回提出したチャートに、組織やサービスの列を加えるべき、本館・拠点館・地域館の順、ネットワークを上にするべきなど、様々な意見をいただいた。
- 副委員長： 今回は、図書館本館を中心に考えるということで縦軸は<中央館>を上にした。横軸に資料世界<本>、図書館員<人>、図書館施設<場>、市民利用者<活動>、マネージメント<運営>とした。議事2で新本館の役割の骨組みのようなものをご紹介しますので、枝葉をつけるような議論をしていただきたい。
- 副委員長： このチャートについては形状の議論ではなく、今後キーワードを埋めていくなかで調整をし、変えていきたい。
- 副委員長： 資料3は暫定案で、今後肉付けしていくなかで変えていきたいという説明だった。
- 副委員長： 「プロセスセンター」とは何を示しているか、説明をお願いしたい。
- コンサルタント： 資料の受入や装備、構成など資料世界を構築していく部門がありますが、そ

- こをプロセスセンターと仮称している。
- 副委員長： 図書館でいうテクニカルサービスということか。
- コンサルタント： そういうことです。
- 副委員長： チャートに「専門的 direct サービス」とあるが、これはパブリックサービスと言われたりする。
- 委員： 他にご意見はあるか。
- 委員： 基本的には良くて、構成要素は揃っていると思う。これからの図書館を考えると中央館が情報系の非来館型サービスの拠点になる必要があると思う。「専門的 direct サービス」とあるが、間接サービスもこれからは重要になっていくと思うので、非来館型サービスを項目に加えてはどうか。また「資料世界〈本〉」は、〈本・情報〉とするのが良いのではないか。
- 副委員長： ご意見のような形で修正をしていただきたい。

## ○ 議事

### 1. 街とつながる新しい本館の活動と環境のかたち

#### (1) パルテノン大規模改修・図書館本館の計画にあたって

- 委員長： 事務局の進行で説明をお願いしたい。
- 事務局： 尾中委員から「パルテノン大規模改修・図書館本館の計画にあたって」を説明していただく。
- 委員： 尾中委員は、多摩市民で都市計画審議会委員。現在、多摩市立複合文化施設大規模改修工事基本計画の策定委員もされている。都市計画と建築に専門的な見知を持っておられるので、中央図書館・中央公園・パルテノン多摩の連携について考察をいただければと思う。
- 委員： (資料4 パルテノン大規模改修・図書館本館の計画にあたって)
- 多摩ニュータウンの歴史
  - 多摩ニュータウンの開発（多摩市内）
  - 多摩ニュータウンの地形の特色
    - ・北側傾斜の地形
  - 多摩ニュータウン内の建築計画（北からのアプローチへの配慮）
    - ・北側傾斜の地形は、建物のアプローチが暗い印象になる。ベルブ永山では北から南への通り抜け、ベネッセ本社では吹き抜けを介して南側の陽光を見せる工夫をしている。
  - 歩行者専用道の整備
    - ・歩車道の分離、歩行者専用道の総延長は40km。
    - ・パルテノンと図書館本館の予定地がネットワークの中心にある。
  - のんびりとした公園整備・ゆったりとした配置の団地
    - ・公園面積は1人当たり16㎡。緑被率は43.6%。
    - ・のんびりした子育て環境が整っている。
  - 多摩ニュータウンの強み
    - ・インフラが整備されている。交通の便が良い。
    - ・総合計画にある「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」というテーマを大切に今後も街づくりを進めたい。
  - 多摩センター駅周辺
    - ・歩専用道がネットワーク状につながっている。
    - ・多摩センター駅から中央公園の標高差は10mで、図書館計画地はさらに上がって15m。パルテノン改修でエレベーターを使いやすくする計画が提案されている。

○多摩中央公園

- ・パルテノン4階のテラスを子どもたちに開放する計画もある。
- ・園路は障がいのある方には厳しい。使いやすく改修を提案したい。
- ・子どもたちに楽しんでもらえるような「冒険の道」を提案したい。
- ・図書館本館は中央公園を大切にしたい配置計画になるように期待したい。

○多摩市内の集会所・ホール、大学

○多摩市内の図書館・コミュニティ施設、高齢化地域

- ・尾根幹線沿いは高齢化率が高く40代50代が少なく、世代交代が進む可能性がある。

○図書館本館計画・パルテノン改修計画について

- ・多様な文化を許容する、20年後30年後を見据えた図書館やパルテノンであってほしい。
- ・年齢を重ねた人、障がい者、子どももいて賑わう図書館であってほしい。今はデイサービスのアクティビティに図書館が利用されていない。声を出してしまうような障がい者も、気軽に利用できる施設になるとよい。
- ・今ある緑は40年で育てたもので、更新していく必要がある。
- ・中央公園でくつろぐ若い家族が気軽に立ち寄れる図書館にしてほしい。

委員： 大変参考になった。多摩市に住んで36年になる。多摩ニュータウンは公園の中に住んでいるようだと思所の人には説明している。昔、住宅都市整備公団の方に、ここは新しい街で、歩車道分離になっていて事故の心配なく駅まで歩いていけるとうかがった。どこからでも富士山が見えるなど、多摩ニュータウンの持つ良い面を改めて思い出した。北側傾斜の斜面地が及ぼす建物と光の関係なども、普段思いつかないことだ。良い環境を活かして、図書館を中央公園と一体に考えるということ、「いのちにぎわうまち」ということにも賛成だ。

高齢化率の高い地区があり、世代交代していこうという事はわかったが、自分たちがすぐにいなくなるわけではない。他市に誇れるような中央図書館整備をしていきたいと思う。

委員： 20年30年を見越して、若い世代が図書館本館を作って良かったと思えるような施設にはいかかがか。

委員長： 中央公園の中の道は図書館計画地まで上り坂もあり、舗装がざらざらで車いすは使いにくいという説明もあったが、歩車道がネットワークでつながりすばらしい計画で街がつけられている。

人は楽しいと、例えば山登りでは植物を見ながら、ゴッホやゴーギャンが辿った道（田園風景の道）では知らずに4～5km歩いていることもある。

パリのルクサンプル公園は、ベンチが本を読む人で埋まっている。中央公園がそのようなことになればと思う。駅から何分ではなく、知らずに歩いていけるように、道すがら展示設備があるような、文化の香りがある道行きになると良い。遊具があちこちにあって、子どもは遊びながら行くと図書館に着いてしまうというような道行きも考えられる。

公園と図書館が一体になるような計画、アプローチで「緑陰読書」ができるようにしたい。

委員： パルテノン多摩の基本計画策定委員会でも、立ち寄り・散策・余韻を楽しめるような公園の環境づくりが提案された。中央公園の中の「冒険の道」のように、子どもが楽しみながら辿れるような提案もある。市民が管理運営をしている部分があり、今後、協議をしながら進めていかかがか。雑木林で本が読めるような工夫も、中央公園の計画に提案していかかがか。

障がい者など車両のアプローチは敷地の南側になるだろうが、歩いて図書館に来る人は公園の道を使ってもらえるように整備していかかがか。自然観察会を図書館で行うようなこともできるのではないかと思います。公園側のアプローチ

- は多様な可能性を秘めている。
- 委員長： ボランティアの方にも中央公園と図書館を一体に考えてもらえれば。  
東大阪市の司馬遼太郎記念館では、数十人のボランティアが道沿いのプランターに菜の花を植えて、記念館に誘い込むような道行きをつくっている。施設が周辺の人に愛されていると感じる。  
居ずまいを正して図書館があるというのではなく、私がいつも行く場所というように図書館が愛されるようになればよいと思う。
- 委員： 高齢化率については皆さんによく考えていただきたいと思っていた。平成27年で高齢化率が26.8%ということだが、30年前は3.4%だった。80年多摩市に住んでいるので変化はよくわかる。高齢化率が地図で示されて驚いた。高齢化率の高いところは公団が始めに入居を開始した地区で、駅から遠い。乞田川流域は民間マンションが多く高齢化率が低い。桜ヶ丘は始めに開発されたところで高齢化率が高い。住宅公団の政策どおりに街がつけられている感じがする。  
中央館敷地については、アプローチなどの説明があったが、あまりにも駅から遠い。アクセスについては非常に大きな問題で、なんとかならないか検討したい。アンケートなどでも意見が多かった。
- 委員： 高齢化率が高い地域は、流動化が進むと考えられる。政策的に誰が間違っていたということよりも、今後どう考えていくかを大切にしてほしい。多摩ニュータウンは、子育て世代にふさわしい地域が多い。この環境を守って、若い世代にうまくバトンタッチしていきたい。
- 委員： 図書館計画をつくるとき、10年20年先に高齢化したところで世代交代が進み、若い人が住み人口が増えるか、街の状況の見通しが大切。かつて浦安市と多摩市は市域・人口・財政規模がよく似ていて、比較をして参考にしていた。ここに来て、浦安市は人口微増、多摩市は微減、税収の違いが出てきている。また、浦安市は平坦だが、多摩市は山坂が多いという地形の違いがある。  
多摩市の人口予測はどうなっているか。
- 委員： 総合計画では、人口は、ほぼフラットで推移するだろうと予測していた。利便性が良いので高齢化をカバーするだろうという観測だが、若い世代が流出しないよう政策を考える必要はあるだろう。人口増加はないだろうと予測されている。
- 事務局： 総合計画は予測期間が短いが、国の予測や長期で見ると、人口は減少していくと考えている。様々な施策でくい止めようとはしているが。
- 事務局： 2060年代では10万人程度と予測されていたかと思う。
- 委員長： 2100年に日本の総人口が6000万人になるという予測もある。  
私が多摩市に住んでいた1979年から90年頃は税収が良く、当時は施設をどんどん作っていた。人口減少の予測はできていなかった。想像がつかないスピードで推移することもある。予測は重めにしておいたほうが良いだろう。
- 委員： 人口総数よりも、人口ピラミッドの形を全国平均に近づける努力をするべきだ、と総合計画の策定では議論をしていた。
- 委員： 30年前に多摩市であったことだが、マンションの内覧会で、来場理由の1位は価格だったが、購入理由の1位は近くに図書館があることだった。それ以来、不動産広告では図書館について記載するようになったと聞く。  
浦安市では年間1万人が転入してきて、その7割が図書館の利用者登録をする。良い図書館があるから移住したという利用者もいた。今後、自治体間で移住者の取り合いになっていくだろう。利便性も移住の要因になるだろうが、図書館がセールスポイントになると良いと思う。

## (2) 多摩センター地区から見た新本館の位置

### (3) 新本館の候補地を見て想像する可能性

- 委員長： 事務局から説明をお願いする。
- 事務局： 新本館の計画地をズームアップして、ご説明する資料を用意した。  
パルテノン多摩の基本計画ではエレベーターを使いやすくすることで段差解消・バリアフリー化を検討している。  
資料の説明は、コンサルタントにさせていただく。
- コンサルタント： 資料5をご覧いただきたい。基本構想をイメージしていただくための基礎資料を用意した。

#### ○都市活動に連担して（1/5000地図、1/80000地図）

- ・歩行者専用道のネットワークは多摩センター駅に向かうだけでなく、新本館計画地の周辺にも広がっていて広範囲をカバーしている。南西側の歩専用道は中央公園南西の辻広場に集まっています、アカデミーヒルズは辻広場に向けて施設を作っている。
- ・計画地を見たときに、ほとんどの方は平坦な西側の歩専用道を通って辻広場からアプローチする。ゆっくり歩きたい方は公園を通ると考えられる。駅から800m程度の距離。
- ・計画地の顔は、北側を向き、公園に向いている。
- ・サービスや送迎、駐車場の動線は、計画地の南側からアプローチする。
- ・新本館計画地を中心に半径400m、800mの範囲をみると、かなり多くの方が徒歩圏に入ることがわかる。新本館に魅力があれば、1.5kmの範囲で利用者があつまるだろうと推測される。
- ・歩専用道のネットワークは全域から歩行者が集まることができて、駅から歩くときも便利。公園を歩くルートができればなお良いが、いちばんの課題は段差の解消で、パルテノン改修計画で工夫がされると尾中委員から伺った。

#### ○敷地の大きさ・敷地づかい（1/600計画地敷地図）

- ・新本館計画地は、北側が中央公園に接していて、歩専用道の辻広場から駐輪場を通っていくと計画地にフラットにアプローチすることができる。
- ・現況ではここに雑木林と築山がある。公園側に開くことができるか、公園計画でも検討されているだろうが、図書館からも希望を出していきたい。
- ・建ぺい率60%で敷地の3分の2くらいを建物が占める。容積率は300パーセントで、新本館はらくらく建てることのできるだろう。

敷地の大きさを見て、ここに中央図書館が本当に入るのか疑問がわいてくると思う。続けて「新本館の候補地を見て想像する可能性」の資料をご説明する。

#### ○計画敷地に他市施設を置いてみる

- ・他市の中央図書館と新本館の計画地を同じ縮尺で比較したもの。
- ・比較をしてみるとわかるが、図書館の原則である開架室をひとつの階にまとめるということは、この計画地では難しく、重なる図書館になることが想像される。
- ・駐車場の配置や館内の動線、職員配置が少なくてすむようにサービスデスクを少なくできるか、他市では苦勞している。

#### ●町田市立中央図書館

三層に重なっているのもひとつのフロアが小さくまとまっている。

#### ●武蔵野市立中央図書館

敷地が狭く公園部分を残す必要があったため、三層に開架室を配置している。地下に書庫と駐車場がある。



- 小山市立中央図書館  
事務系が広く1階が広がっているが、開架室は計画地に入る大きさ。
- 君津市立中央図書館  
1階にだけサービスデスクを置いて人員少なくする工夫をしている。  
図書館の建物は計画地に入るが、駐車場は入らない。
- 諫早市立諫早図書館  
合併して中央館となった図書館。閉架が12万冊とこの規模では少ない。  
地下には駐車場51台、アウトリーチサービス部門のスペースがある。
- 伊万里市民図書館  
平屋建てなので、集会展示部門は計画地には入る大きさではないが開架室は納まっていることがわかる。駐車場が計画地に入らないことがわかる。
- 浦安市立中央図書館  
この図の3層分あり、開架41万冊で閉架は83万冊。

委員長： 諫早図書館は集会室や読み聞かせのスペースが上手に配置され、同時にイベントができるレイアウトだった。子どもの読書活動推進にも熱心な図書館だ。  
新本館計画地のアクセスについては基本構想に盛り込むべきだ。東京は南北のアクセスが不便なので、杉並区では行政がマイクロバスを運行している。30分に1本程度で料金は100円、70歳以上は無料。多摩市は起伏が多い。普段は地域図書館に通うとしても、気軽に魅力ある中央図書館に行けるように、巡回のマイクロバスが運行すると良いと思う。

委員： 公園と隣接した図書館の良さ、豊かなイメージがあり期待を持っている。緑と一体になった図書館の可能性にも期待したい。  
駅からの高低差については現在よりも段差解消の工夫はされるようで、元気な人は歩いていくことができるが、それができない人にとっては車でのアプローチが大切になる。

以前、今の本館の敷地にミニバスの停留所を設けてもらうよう、政策提案を行ったが実現しなかった。敷地まで上げてもらう要望だったので、バスが回転できないことや、本館に寄るルートになると巡回の時間が延びるので増便する必要があり費用がかかるなど様々な理由があった。

新本館計画地にミニバスが運行するとして、道路やロータリーの形状は改修しないでのいいのか。

また、桜美林学園は現本館敷地で学校を開校するということだが、アカデミーヒルズとの横断動線を考慮をする必要はないのか。

コンサルタント： ニュータウンの道路設計は道路構造令に基づく必要がある。このロータリーはクルドサック(袋小路状道路)という形状になっているが、大型バスでも回転できると考えられる。この袋小路状道路には、アカデミーヒルズと現本館の2つの敷地が接している。建物建設の際は工事車両も通行しただろう。

事務局： 現在、この道路の歩道はアカデミーヒルズ側のみついていて、図書館本館の敷地側にはついていない。拡幅して歩道をつける必要があるか、庁内で検討を行っている。ミニバスがその検討に入るかわかりませんが、道路拡幅については検討をしている。

## 2. 多摩市の新しい本館の役割

### (1) これまでの研究と議論の確認

委員長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： 議事2は、多摩市の新しい本館の役割ということで、先ほど説明した「現況と課題チャート」の観点あるいは、これから説明する平成22年の図書館協議会の答申に沿ってでもよいので、ご議論いただきたいと思う。

資料6をご覧ください。

○多摩市のこれまでの「中央図書館の研究と検討」の経緯について

(多摩市読書活動振興計画より抜粋した資料)

- ・平成2年に委託して作成された『多摩市立中央図書館基礎調査報告書』から、過去に総合計画へ記載された「中央図書館の建設」、図書館協議会に諮問答申をいただいた『中央図書館機能および整備のあり方』など、連綿と検討をつづけてきたが実現に至らなかった。
- ・その間、市民グループによる研究も進んでいた。

○『多摩市立中央図書館基礎調査報告書』より

・図書館サービス網の整備と中央図書館の建設

このうち中央図書館の建設は、次の理由から、最も緊急を要する

- ①地域図書館をより身軽にし、新鮮で豊富な資料群によって市民にサービスできるようにするには、それをサポートする中央図書館が必要になること
- ②市民の広く深い資料要求に応えるには、多摩市立図書館(本館)を含む現在の図書館体制では不十分で、抜本的な施策が望まれること
- ③発展する多摩市の頭脳センター、並びに変貌する多摩市の歴史と現在を記録・保存する資料センターを緊急に必要とすること
- ④視聴覚資料やニューメディアによるサービス、あるいは障害者に対するサービスを進めていくには、充実した中心機能が求められること
- ⑤子どもの読書環境としての公共図書館と学校図書館を、多摩市の教育行政の中に総合的に位置づけ、関連しあった発展を図る必要があり、そのための機能を拡大しなければならないこと

・図書館サービスの到達指標

この当時人口18万人を想定しているので、最近の状況を勘案して8掛けで数値を見ると参考になる。

・中央図書館にもとめられるもの

住民への直接サービス機能・直接サービスを支える機能

中央図書館は市内全域の図書館サービスを支える機能を持つ必要がある。

・開かれた図書館の働きとは

- (1)図書館は、市民の暮らしに役立ち、市民の幸せをつくり出すところ
- (2)図書館は、多摩市の頭脳となるところ
- (3)図書館は、市民が互いに交流し、文化を創り出すところ

・すべての市民に図書館サービスを

- (1)誰でも (2)いつでも (3)どこに住んでいても (4)どんな資料でも

・図書館は地域の基本施設となるもの

○『多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方』

平成20年に図書館長から図書館協議会に諮問をし、平成22年に答申があったもの。平成20年に本館の暫定利用が始まってから答申されたものなので、最近の状況を踏まえて提供されているものと考えている。これを骨格として肉付けをしていく、あるいは柱として枝葉をつけていくということを提案させていただきたい。

1.文化都市にふさわしい「本の館を」(念頭に置くべき3つの中央図書館整備)

- ①多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支える。
- ②パルテノン多摩との連携も図りつつ、多摩市の文化・情報・教養活動の基地となる。
- ③学校との連携も含め、生涯学習の拠点となる一方、市民のコミュニケーション

ョン向上に役立つ。

## 2.現在の「本館」の問題点

- ・本館は駅から徒歩15分の距離があるのに加え、坂の上に位置している。
- ・延床面積は広いが荷重の関係で書架を分散して置かなければならず、移動距離が長い欠点がある。

## 4.中央館図書館の役割とサービス

### (1)多摩市の図書館システムの中核として

多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支える。

#### ①蔵書構築と保存

各分野の資料を専門書を含めて整備、充実し、できるだけ開架展示を進めるべきである。

#### ②充実したレファレンス機能

レファレンスに応えられる専門職ならではの司書の働きを示すべきである。市の行政・職員へのサービスも強化する。

#### ③インターネット、各種DVDなども備えた情報の拠点化

「役に立つ図書館」とは、課題が解決できる豊富な資料群と、それらを駆使して課題解決を支援する司書のいる図書館である。

#### ④分館とのネットワーク充実と移動図書館

中央図書館が整備され、地図の上では図書館空白地域は殆どなくなっても・・・移動図書館が復活することが望まれる。それが難しい場合は、それに代わるきめこまかな対応が必要。

#### ⑤東京都、国、他区市立図書館、類縁機関との対外窓口

図書館は膨大な情報の入口であり道しるべとしての役割を果たす。

#### ⑥図書館の寄贈呼びかけ、受け入れを通じた市民との一体化

寄贈には手間がかかったり、図書館として欲しい本と市民から寄贈される本はかみ合わない面もあったりと課題は多いと推測される。しかし寄贈には、入手困難な資料を得ることの他に、それを通じて人と図書館が結びつき、市民と一体化を図れる。

#### ⑦バリアフリーなど障がい者、高齢者への配慮

パルテノン多摩とそれを包み込む公園、緑に沈む「本の館」のイメージは大切だが、公共交通網の整備、ミニバス運行、坂や階段への対策など、また、駐車場の狭さにも対策が必要。

### (2)活動の基地として

パルテノン多摩との連携も図りつつ、多摩市の文化・情報・教養活動の基地となる図書館

#### ①図書に関する種々のイベント企画の実施

講演会、講座、講習会、展示など、図書館や資料と関連づけた企画やイベント、地域関連の身近な事柄などの情報発信

#### ②絵画、写真展などのできる展示コーナー、喫茶コーナーなどの設置

### (3)地域コミュニティの中核として

学校との連携も含め、生涯学習の拠点となる一方、市民のコミュニケーション向上に役立つ図書館

#### ①学校との連携

ある程度は支援制度が機能しているが、担当部局・担当者を設置すべきである。

#### ②地域の団体、施設等へのサービス

学校との連携の他にも、地域の文庫などの市民団体、保育園、幼稚園、児童館、福祉施設、病院等各種団体へのサービスの充実が必要

③市民が自由に使える場所の設置と支援

④市民参画の向上

図書館における主人公は、子ども、大人、高齢者、外国人など、一人ひとりの多摩市民である。

(4)職員のあるべき姿

利用者のニーズにあわせて適切に支援できる職員が必要である。

職員（司書）の資質向上は緊急の課題である。

専門性を第一義にした職員採用方式へ

5.おわりに

図書館の設計にあたっては、図書館建築に実績のある優れた設計事務所を選んで使い勝手の良い図書館を目指すことが必要である。

○『多摩市読書活動振興計画』

○『多摩市立図書館の基本方針・運営方針』

基本方針：市民の知るを支援する

運営方針：1. だれもが使える図書館

2. 子どもの読書環境の整備

3. 市民や地域に役立つ図書館

4. しらべるを支え、つながる図書館

5. 弾力的な管理・運営

この方針にそって基本構想もまとめていきたい。

平成22年の図書館協議会の答申と『多摩市立図書館の基本方針・運営方針』を基本構想の柱としたい。付け足したいことなど、ご意見をいただきたい。

委員長：平成22年の図書館協議会の答申は、ニーズについては網羅されているように思う。

平成2年の『多摩市立中央図書館基礎調査報告書』から様々な検討があったが、のんびりしたテンポで現在に至っている。どういった経緯だったのか。

事務局：平成2年に委託して作成された『多摩市立中央図書館基礎調査報告書』ができてから平成3年の『第三次多摩市総合計画 基本計画』に「中央図書館の建設」が記載されて、平成8年、平成13年と総合計画に中央図書館について記載があったが、平成16年の行財政診断白書の発行から、このままでは財政的に難しいということになってきて、総合計画のとおりに進めることができなかった。さらに公共施設の見直しなども経てきたが、現本館の建物は暫定利用で施設環境の状況も厳しいものがあるということで、ここに来て、整備をしなくてはいけないだろうということになったと考えている。

委員長：多摩市の場合、財政事情が急に好転したということはないだろうと思われるが、市長の政治判断などがあったのか。

事務局：学校法人から敷地交換の提案があったことが大きな要因と考えている。別の候補地があったが、敷地の形状や民間との組み合わせに難しい要件があった。現本館とアカデミーヒルズの一部の敷地の交換の申し出があり、差額をいただけるということも良い材料となり、新本館建設が進むことになった。

委員長：現実に新本館ができそうな状況になってきた。平成22年の図書館協議会の答申はかなり形になっているが、付け足したいことや時代の変化などから付け加えるべきだ、というご意見はあるか。

委員：すこし振り返りをしたい。資料6の1ページ目、「市民グループによる研究」に2000年に発行された『市民のための中央図書館をつくろう』が紹介されている。本日、委員の皆さんにお配りした。多摩市立図書館の初代館長である伊

藤峻さんの講演録で、2000年までの多摩市の図書館の経過と、多摩市の図書館に対する理念が読み取れる。参考にさせていただきたい。

先ほど配付した多摩市に中央図書館をつくる会の発行物のリストには残部のないものもあるが、図書館に蔵書されている。裏面に基本構想に活かしたい参考図書のリストを記載した。この中の『図書館をめざすもの 新版』を紹介したい。編・訳者の竹内哲さんは日本図書館協会の理事長もされた方で、多摩ニュータウン創立期に永山の住民だった。文庫連をつくった「なかよし文庫」に助言・協力をして文庫活動もいっしょに行っていた。その導きのもとに文庫連の発展や図書館づくりの運動もある。『アメリカ社会に役立つ図書館の十二か条』を訳して解説を加えたもので、2014年出版された新版には、全米図書館友の会連合会の「図書館協約」と日本の図書館友の会全国連絡会の「私たちの図書館宣言」比較や日米の図書館の比較があり、日本の図書館をどうしていくべきか、投げ掛けがされている。基本構想はこれから言葉を紡いでいく段階になるので、この理念も反映させていただきたいと思う。

委員： 中央図書館を求めて連綿とした基礎調査や諮問答申があるが、どれにも中央図書館の大切な仕事に、地域館を支援するということが書いてある。こういうふうにも求められてきたのに、公共施設の見直し行動プログラムに一度は3館構想という提案がされて、市民は驚いた。反対運動もあって地域館が残ることになったが、基本構想には、その変遷が市民にわかるような記述が必要ではないか。

副委員長： 基本構想で付け足すべきことや、修正した方がよいことについて、  
○児童サービス、ティーンズサービス、地域向けサービス、多文化サービスについては、読書活動振興計画には記載があったので、付け加えるべきだ。  
○「インターネット、各種DVD」すこし表現が古いので、wifiなど現在のICT環境に合わせた表現としたい。  
○「移動図書館の復活」地域館が存続するなら、移動図書館は必ずしもなくてよいのではないか。  
○「寄贈の呼びかけ」寄贈に過度に頼るのは良いことではない。図書館の責任で資料を収集するべきだし、出版文化に寄与することにもなる。  
○「市民参加の向上」では市民の意見を取り込むとあるが、図書館では障がい者サービスや児童サービスでボランティアに協力をしてもらっている。さらに活動を広げていただくようにしたい。  
○マネジメントについて、図書館の自己評価・外部評価の実施と公開を行うべきだと考える。  
○図書館を居場所として活用するという。図書館協議会答申にはこのキーワードがなかった。

委員長： 居場所について、もうすこし詳しく説明していただきたい。

副委員長： 図書館は唯一、公共施設の中で肩肘張らずに一人でいることができるし、邪険に扱われることがない。本や新聞を読むことができ、人との出会いもある。新本館の計画にカフェを盛り込むことはないかもしれないが、武蔵野プレイスのように、図書館の利用を情報収集だけとは捉えずに時間をゆっくり過ごすことを提案しても良いのではないか。

委員長： 「自殺をしたくなったら図書館へ」という名言もあった。

若い人も生きにくい時代。一人で居られる場所は重要でハードとしてつくるよりもソフトのアプローチが大切かと思う。

委員： ここ10年学校教育で全ての小中学校で取り組んでいるテーマに「持続発展教育・ESD」というものがある。多摩市を課題先進都市と位置づけて、将来の担い手である小中学生にテーマをもって学習させていこうという取り組み。新本

館でもそういう視点を置いていただければ、というのが小中学校からの大きな願いである。学校との連携、学校司書との連携協力ということが資料にあった。どの学校でもE S Dを教育活動全体でとらえようとしている。4 C (カリキュラム、コミュニティ、カルチャー、キャンパス) をテーマにしながら取り組んでいる。具体的には、環境・地球温暖化・人口・高齢化・防災などを自分たちの足下から考えて取り組んでいる。地域との接点を考え、出て行って学んでいる。次期の学習指導要領に「地域に開かれた教育課程」ということもあり、ますます全国に展開する教育活動だと考えられる。

図書館を考えたときに、E S Dをどのように子どもたちに学ばせるか、学校にある資料では賄えない。子どもが中央図書館に出かけて行って調べるだけではなく、話し合う・会議などができればよいと思う。キャンパスということでは、新しい技術で環境に良いことなど、新図書館の建物から学ぶこともできる。テーマに合わせて柔軟に学べるような場にできればよい。

また、子ども未来会議や中学生サミットなどが行われている。図書館で開催されて、調べる・発表する、という未来志向の学習の場にしたい。10～20年前にはなかったテーマで、取り組んでいければと思う。

委員： E S Dは学校教育で浸透していて、子どもが自分の頭で考えるようになった。多摩市は成人式を実行委員会で執り行っていて、大澤委員もそのメンバーだった。その様子を見てみると、臆することなく自分の意見をきちんと言うことができる。多摩市の子どもは立派に育ったな、と思う。

「子どもへのサービスの充実」は読書活動振興計画にも挙がっている。図書館でもE S Dの観点で学べるようにしたい。親にも参考になると思う。

中央図書館整備は将来を見据えてというが、E S Dは2050年を目標にしている。そのような設定もあるのではないかな。検討材料にしたい。

事務局： E S Dは「2050年の大人づくり」がキャッチフレーズになっている。子どもたちを地域を守る担い手づくり、課題解決ができる大人になれるようにしていきたい。

委員長： E S Dを具体的にどのように図書館活動に結びつけることができるか。また別途ご発言いただきたい。自分で考えられるということは、教育でも図書館でも全てのことに求められている。

委員： 基本構想なので、あまり具体的なことを書いていくと次の段階の計画を縛ることになる。機能や役割を重点に述べていきたい。

例えばヨーロッパで戦争があった頃には、最初に相手の国の美術館や図書館を破壊するようなことが行われたり、あるいは武力で勝っても文化で負ける、というようなこともある。図書館は文化・教養に分類され、理解はされやすいが、実はお金にならないので予算が獲得できない。基本構想には「文化教養を守るのは図書館」と書かねばならないが。

図書館協議会答申にある「職員のあるべき姿」に「図書館における利用者の課題解決のために」というところが非常に重要だと思う。働き盛り世代がいちばん大変。「自殺をしたくなったら図書館へ」と先ほども出たが、図書館が駆け込み寺になっていることが知られていない。

子どもを育てているのは大人だから、働き盛り世代・大人の課題解決は大切で、現代の図書館では重要なサービスである。多くの自治体では図書館に来ない世代だが、多摩市や浦安市ではそこそこ利用がある。この利用を増やしたい。ビジネス支援、医療・健康情報の提供などをしていきたい。

また、市役所を支援するということも重要。日野市、浦安市などで行われている。市役所の課題は市民の持っている課題ともオーバーラップする。行政マンが効率よく仕事をすれば、市民の生活も良くなっていく。図書館の仕事が庁内で理解されると予算を通しやすくなる。一石二鳥、三鳥の効果となるかもしれ

ない。経済の活性化や市民の健康は、行政の課題でもある。こういったことを文章・項目として入れたい。

そういう図書館があれば、若い世代が移住するようなことも推進され、ESDとリンクしていく。文化・教養というとなんか難しいが、自分の問題の解決から利用に繋がっていくような、情報の力がある裾野の広いサービスをイメージしたい。

空間として市民が交流できる、大学図書館でいえばラーニングコモンズのような自由に声を出して議論ができたりするところや、利用できる機器があり支える図書館員がいるというような空間を、機能として加えたい。

委員： 20代の若者は図書館の利用率が低く、どのように誘引するか、多摩市立図書館の課題となっている。文化・教養よりも、若者が集まりやすい環境づくりをしていくとよいと思う。カフェやたまり場、中高生には自習スペースがあると活用される。橋本のミウイ（相模原市橋本図書館が入居している商業施設）は自習ができるスペースがあり、夜遅くまで利用できる。席がとれない程の利用がある。

委員長： 若い人・働く人が使いやすい図書館、魅力的な呼び掛けだ。ぜひ文言まで含めて考えて提案していただきたい。

南相馬市の図書館は、屋上に夜遅くまで上がることができて星空を見上げられるベンチがある。そういった若者を呼び込むようなレイアウトやアイデアもある。

常世田委員の言われるようにあまり具体的に書かず、参考になるようなことは小さな活字を使って表現ができればよいと思う。

#### 4. パブリックコメントの募集及び市民フォーラムの開催について

委員長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： 資料7をご覧ください。

多摩市立図書館本館再構築基本構想 原案に係るパブリックコメントの募集及び市民フォーラムの開催について（案）

##### ○パブリックコメントについて

- ・基本構想原案について意見公募を行う。
- ・募集期間11月26日から12月16日、3週間程度としたい。
- ・事前公表は11月5日、たま広報及び公式ホームページ

##### ○市民フォーラムについて

- ・11月26日から12月4日の間の1回の実施を予定。
- ・事前公表は11月5日、たま広報及び公式ホームページ

策定委員会の第6回、第7回は11月20日、12月18日、1月7日の3回から進捗に合わせて開催することになっていた。パブコメの予定などから、第6回を11月20日にして、素案を提出する。策定委員会でいただいたご意見を修正して、原案としてパブコメで公表したい。第7回は1月7日として、パブコメの意見整理を行い、反映した基本構想案を提出する。ここでいただいたご意見を加えて、教育委員会に提出していく。

その他

委員長： 今日は本館についての様々な意見が出された。反映したい意見を次回の策定委員会の事前でも良いので、メモで提出していただければと思う。